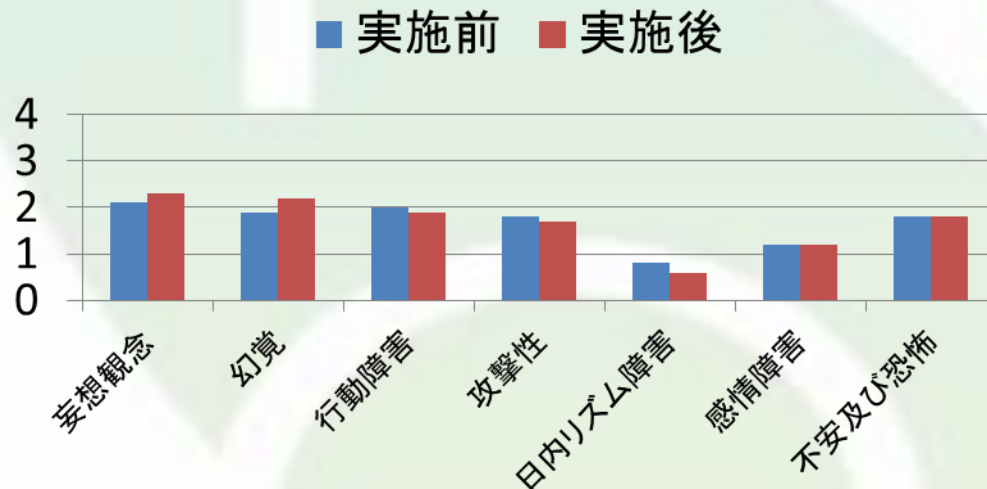
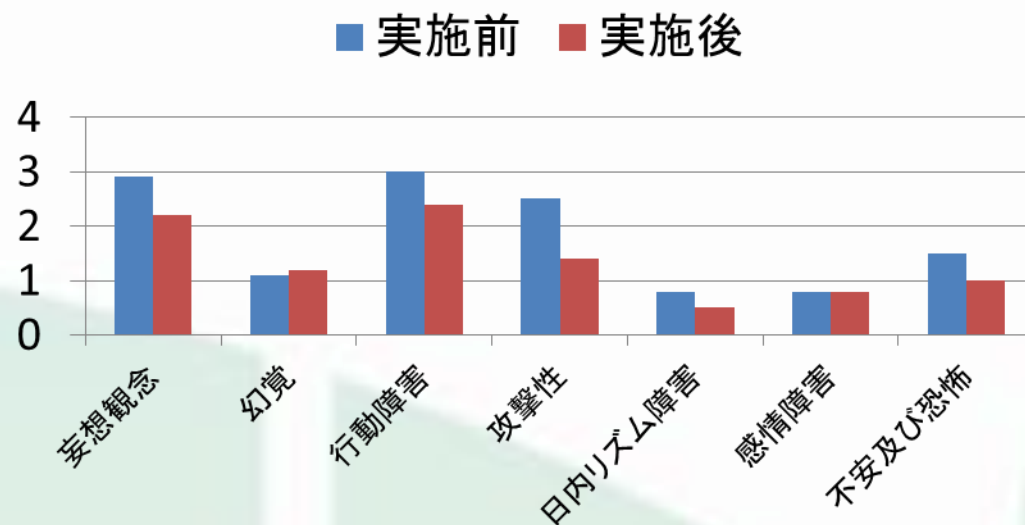




# IOTAハンドコミュニケーション® エビデンス

2017年5月12日

# エビデンス①行動・心理症状の変化について



## 6週間ケアをしたグループ

※通常ケアは一切行わずにハンドセラピーのみ。

- 認知症の行動、心理症状である妄想観念、行動障害、攻撃性、日内リズム障害、不安及び恐怖が改善された。
- 知的機能、感情機能が下がらず、維持することができた。(GBSスケール／老年期認知症行動評価尺度での測定結果)
- ストレスホルモンが減少した(唾液による検査)

## 通常ケアを行ったグループ

※通常ケア:音楽療法、作業療法

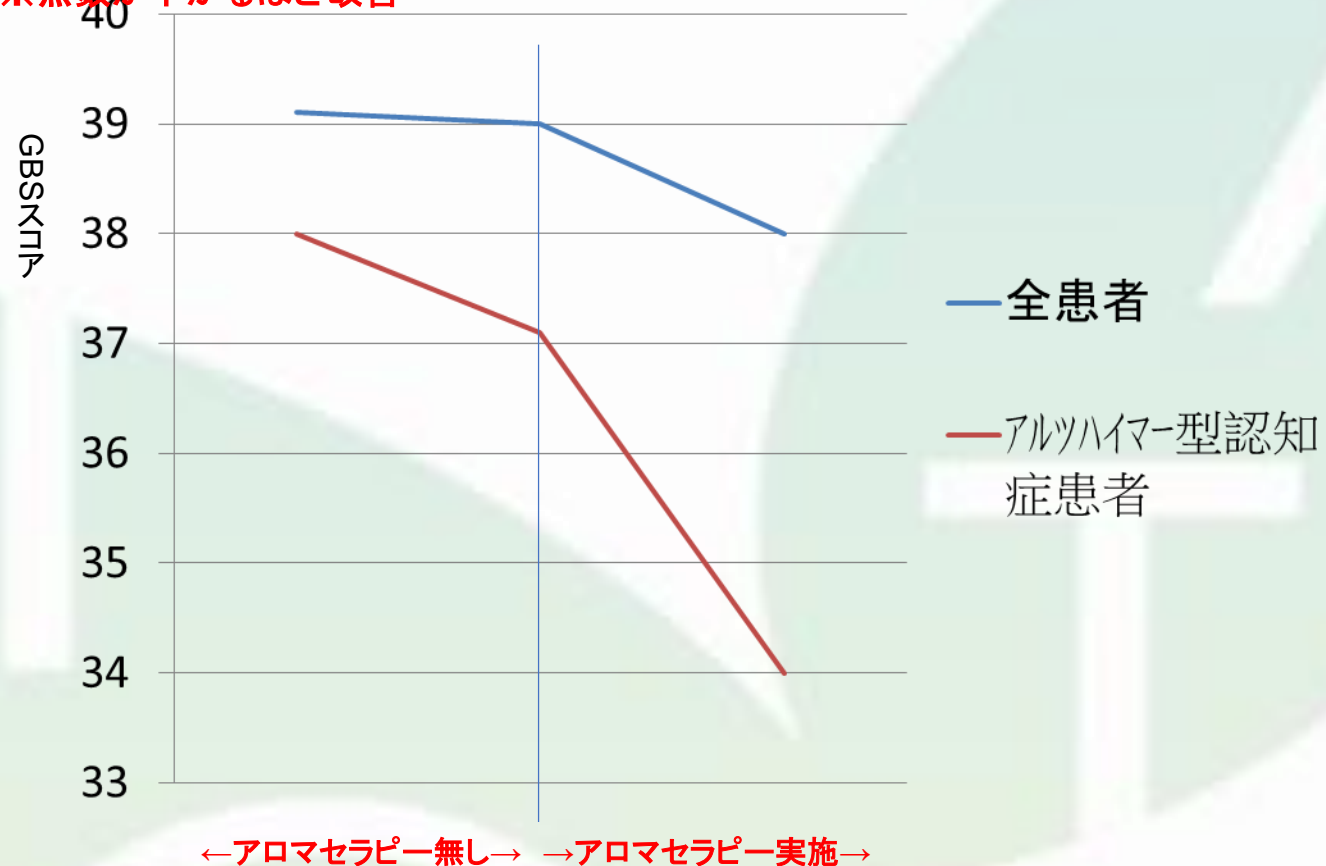
- 認知症の行動、心理症状の項目で改善が見られたものもあるが、改善度合いは低い。
- 知的機能、感情機能が多少ながらも下がった(GBSスケール／老年期認知症行動評価尺度での測定結果)
- ストレスホルモンの変化はなかった(唾液による検査)

## エビデンス②アロマセラピーの知的機能への効果



### GBSスコアの改善(知的機能の改善)

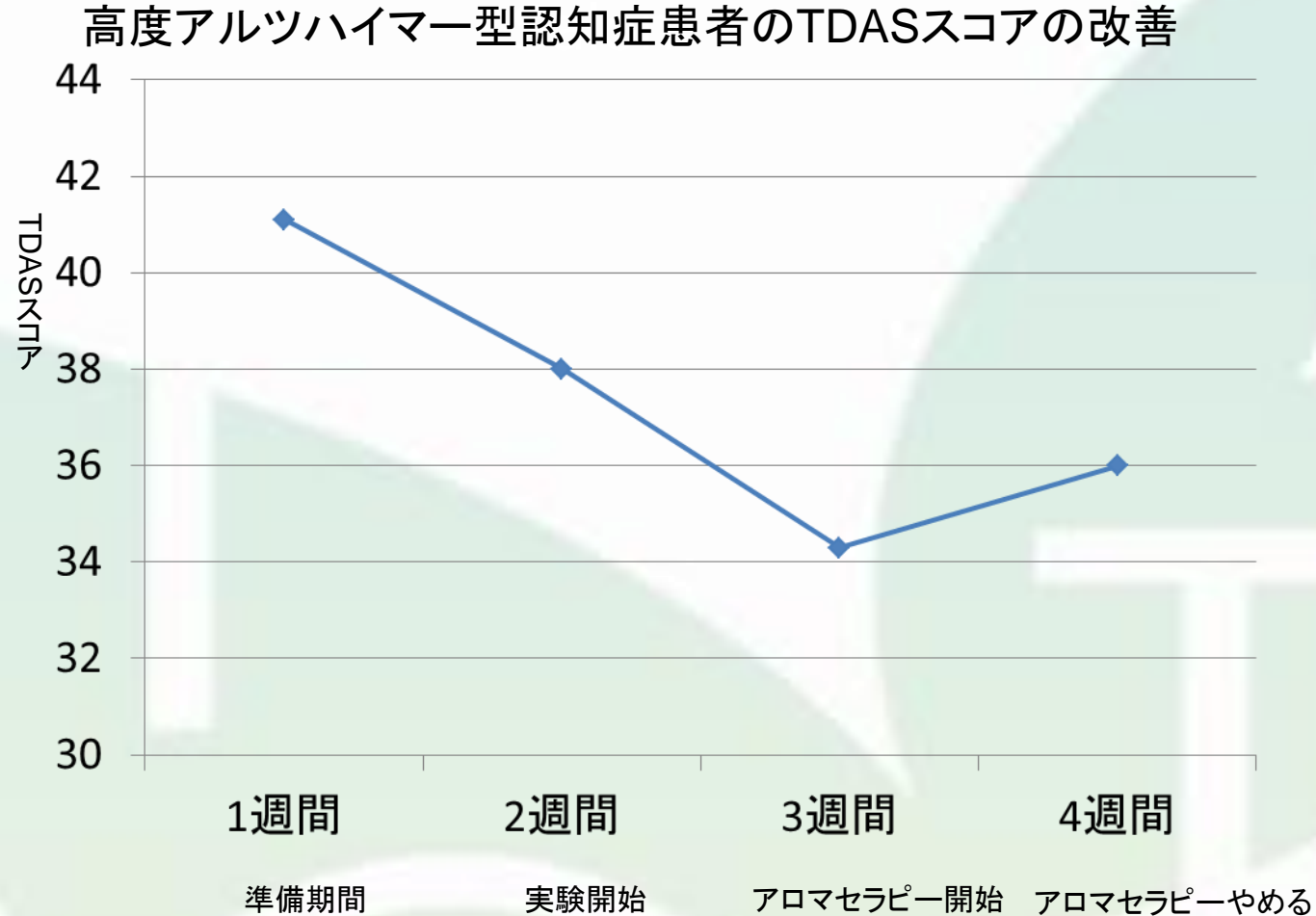
※点数が下がるほど改善



鳥取大学医学部教授医学博士浦上克哉調べ

介護老人保健施設の入居者に精油の香りを28日間嗅いでもらい、その期間の前後でGBSを使った知的機能の検査を実施。

## エビデンス③アロマセラピーの知的機能への効果



介護老人保健施設の入居者に対して実施。1週間目（準備期間）、2週間目（実験開始アロマセラピーは行わず、環境に適応させる）、3週間目（アロマセラピー実施）、4週間目（アロマセラピーをやめて実験前状態に戻す）の計4回、TDASスコア確認。

鳥取大学医学部教授医学博士浦上克哉調べ

高齢者77名の中に含まれていた高度アルツハイマー型認知症患者さん65人、85%の人のTDASスコアが改善



## QSITスコアの改善(嗅覚障害の改善)

※点数が上がるほど改善



鳥取大学医学部教授医学博士浦上克哉調べ

アロマセラピーで嗅覚に刺激を与えることでアルツハイマー型認知症の予防と改善に効果が得られることを確認。レビー小体型認知症も嗅神経から発症していくことがわかっており、現在も研究が進められている。